

WINGS-GLAFS

高齢社会総合研究国際卓越大学院

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology:

Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society

(略称：WINGS-GLAFS)

プログラムの概要	104
プログラム担当教員	107
応募状況と合格者	109
WING-GLAFS の全体像	110
学生の業績	111

WINGS-GLAFS

プログラムの概要

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齢社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齢者を研究対象とする方に限らず、高齢社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、対象としています。

■1_プログラム参画専攻(2024年度)

本プログラムは、以下の専攻に所属する学生が履修することができます。

【工学系研究科】	全専攻
【人文社会系研究科】	社会文化研究専攻
【教育学研究科】	総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻
【法学政治学研究科】	総合法政専攻
【総合文化研究科】	広域科学専攻
【農学生命科学研究科】	生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、 水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、 生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、 獣医学専攻
【医学系研究科】	社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、 外科学専攻、国際保健学専攻、 健康科学・看護学専攻
【新領域創成科学研究科】	人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、
【情報理工学系研究科】	知能機械情報学専攻
【学際情報学府】	学際情報学専攻

■2_カリキュラム

<必修・座学>

高齢社会総合研究学通論Ⅰ・Ⅱ(1単位×2科目・2単位)

・俯瞰力の修得

高齢社会の基礎を「心と体の健康」、「社会環境」の2側面から効率的に理解し、「俯瞰力」を養います。

<必修・演習>

・現場解決力(1単位×1科目・1単位)

活力ある超高齢社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、上記の座学に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験する。

<選択必修> 高齢社横断科目群(4単位以上)

・領域連携力の修得

超高齢社会の視点で、自らの専門領域あるいは他の領域を、各専攻から提供される幅広い科目から選択して学び、「領域連携力」を養います。



高齢社会演習

2024年度 プログラムNo.2403

「フレイル予防」



■担当教員：松島勝也(本学ビジネス研究センター・教授)、藤瀬剛(未来ビジョン研究センター・特任専任教授)
研究支援(高齢社会総合研究機構・特任助教)

■概要：高齢者が自らたくましく生きるためには、「健康増進→フレイル(虚勢)予防」が重要であり、積極的なまづくりが必要である。東大IOGは2015年に地域住民主体のフレイルチェックプログラムを開発、自ら手であるフレイルサポーター(地域高齢者)を養成し、地域において、住民主体的に高齢者がフレイルの兆候に気づき、フレイル予防活動を持続的に進めるように促している。

2024年度のフレイル予防の演習は「フレイルの兆候を(早期)に察知しながら、IOGが長年にわたり行っている「ユースト研究」(金澤とみくらだの健康増進調査(遠達・柏スタディ))」に参画する内容である。柏スタディは、一つの地域において身体測定、高血圧の検診、調査票による日常生活の調査とともに、同様に生活習慣に即した食生活チェック、図解する図表である。

2024年度柏スタディでは「(養育歴に着目した高齢女性のフレイル早期検知の指標と予防策の開発)」プロジェクトに関連してデータ取集や分析を行い、生涯・健康のフレイル早期検知の効果を試みている。

本演習を通じて、多様な地域在住高齢者と接して、フレイル予防の重要性を知り、総合知(人文社会、情報理工学、工学、医学、新領域など)の取り組みを学ぶことで、自分の研究に対する考え方や分野横断連携の作法を学ぶ。



フレイル予防



高齢社会演習

2024年度 プログラムNo.2411

「Bill Sage教授 来日講演会」



■担当教員：畑中綾子(東京大学高齢社会総合研究機構研究員)

■概要：2025年3月に、アメリカの著名な医事法学者William Sage教授が来日されます。この機会に、「高齢社会と法ワークショップ2025 March」に招かれた2つの連続講演ワークショップを開催いたします。

Sage教授は法学博士と法学博士のDouble Degreeで、クリントン政権時代の医療保険改革の際にアドバイザーを務めておられました。第1講演は、高齢社会における医療安全、第2講演はコロナ禍での医療政策全般に関する問題についてお話いただき、ご参加の皆様とごくばらんな議論をする企画です。

第一講演14:00-17:00
合衆国の医療過誤法における医療安全をめぐる最近の傾向(飯塚)(日本語サマリーあり)
Medical Safety-Trends in the US Law of Medical Negligence (Malpractice)(Tentative title)

第二講演18:00-20:00
アメリカ高齢者法・医療政策への新型コロナウイルスの影響(飯塚)(同時通訳あり)
American elder law and health care effected by COVID-19

■日程：2025年3月6日(木)第1講演 14:00-17:00、第2講演 18:00-20:00
・参加方法は対面(工学部8号館702号室 ライブラリー)もしくはオンライン

■申し込み方法：必ず、下記参加フォームから開日までに申し込むこと
参加申込フォーム(申込締切:3月4日17時まで)
<https://forms.gle/7d9qv7rF6N0k6w5>

■ポイントについて：第一講演で3P、第二講演で2Pのポイントを付与する。
次年度夏学期のイベント申請フォームが配布された前、忘れずに申請すること。

Bill-Sage教授・来日講演会



高齢社会演習

2024年度 プログラムNo.2406

「リビングラボ」



■担当教員：秋山弘子(高齢社会総合研究機構客員教員)、吉田淳子(高齢社会総合研究機構学術専門職員)

■概要：リビングラボとは、生活の現場(住んでいる自宅、地域など)において、企画段階から住民を巻き込み、企業、自治体、大学、各種団体等が互いの強みを持ちより、生活者起点で暮らしを豊かにする製品やサービス、社会の仕組み等の新たな価値を創出する活動です。東京大学高齢社会総合研究機構は、東京都、今後自治体内、NPO法人メソッポポート・鎌倉同業会、三井住友FG等と「鎌倉リビングラボ」を運営し、高齢社会の課題を解決するものやサービスを創り出す活動を行っています。

本演習では、大学・自治体・企業・組織等の約400団体900名が登録し、リビングラボに関する研究発表や意見交換、交流を行う「リビングラボ研究交流会」への参加機会を提供します。

その他、リビングラボに関するイベント、テストベッドにおけるワークショップやインタビュー等への参加機会も提供します。

■日程：リビングラボ研究交流会は年2-3回開催を予定、日時が決まり次第メールにて告知、実施はオンラインまたは本都キャンパス。
リビングラボイベントの開催は日時未定。日時が決まり次第メールにて告知。原則現地(鎌倉市内)での参加。

■留意事項：
・現地開催の場合、交通費は別途支給する。
・リビングラボ研究交流会への参加は上層による。
・リビングラボイベントやテストベッドにおける活動に参加上層を設定する場合があります。
・告知・募集はhomeroom等を経由して行う。

リビングラボ



高齢社会演習

2024年度 プログラムNo.2404

「G-tech」



■担当教員：二瓶英菜、菅原京子、藤岡万祐、三浦貴大、森謙一郎、吉田淳子、吉崎れいな、カンスーイン、伊藤研一郎

■概要：近年、高齢化社会に起因する社会的課題に対して、AIやIoTの利活用による課題解決に関心が向けられている。一方で、活力ある高齢者が増加するとともに高齢者の生活スタイルニーズが多様化しているため、同じく特化したソリューションでは高齢者の生活に十分に支えられないことが明らかとなっている。そのため、高齢者が自律的に自身の課題解決に取り組める柔軟性を持った社会環境のあり方について検討する必要がある。本演習では、高齢者が直面する生活課題を解決するに、高齢者が自律的なQoL向上を目指すことが可能な生活環境(7×24時間社会生活の利便性)を行う、具体的な活動として、①高齢者の生活スタイルニーズを把握する「リアルタイム調査」などの活動と、②実証実験を通じた社会実装の検討の活動である。AIやIoTのみならず、VRやメタバースなどの最先端のテクノロジーを活用した学際プロジェクトの課題などを演習の対象とする。具体的にはジェントロジー・アカデミーのいくつかの講義や研究プロジェクトへの参加や、共同センターや情報科学研究センターの施設の一部を含む。また、プログラムを主軸として得られた調査結果は、学生を主として論文執筆・国際会議発表をサポートし、著者や発表者の活動もプログラムに含める。

■日程：
10月 日程別演習(1h) G-techガイダンス@ライブラリー
10月 日程別演習(2h) 履修生説明会・給食 見学会
10月 日程別演習(2h) 履修生説明会@理研大学 見学会
11月-12月 日程別演習(2h) 調査実験・予備実験
04-07月 日程別演習(2h) 実証実験・フィールド研究・論文執筆
03月 日程別演習(2h) 秋学期まとめ・春学期計画の相談会
日程別演習(2h) ジェントロジー・アカデミー・情報システムで解決の例

■留意事項：
・上記プログラム出席希望者は必ずG-techガイダンスを受講すること(録画対応可)
・調査活動や実証実験の計画・準備会議(ライブラリー/zoom開催)などに参加すること
・日程が決まらないところは、履修者と相談しながら決定する
・交通費、研究活動経費は別途支給
・履修希望者は伊藤 (kito@naga-tekyo.ac.jp)・吉崎 (yoshizaki@mfg.t.u-tokyo.ac.jp)までご連絡すること

G-tech

104

IOG REPORT 2024

<全体研究発表会> 多領域連携

(演習発表／博士論文進捗発表会)

演習履修者には、年に2回の全体研究発表会を設け、それぞれの演習の成果を発表する。加えて、博士後期課程及び4年制博士課程の学生は博士論文進捗状況の発表を行い、異分野の研究手法等を学び合う場をつくる。

■3_開講科目

2024年度開講科目一覧

カリキュラム一覧								
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当教員名	曜日	時限 (開始・終了)	必修 選択必修	開講日講義室名 その他特記事項
講義（必修:2単位）								
3799-461	高齢社会通論1	1	A1	飯島	水	5限 16:50-18:35	必修	10/16～12/4オンライン (初回はハイブリッド)
3799-462	高齢社会通論2	1	S2	大月	水	5限 16:50-18:35	必修	6/5～7/17 オンライン
演習（必修：1単位）								
3799-463	高齢社会演習	1	通年	各教員	－	集中	選択必須	開催日、開催場所は 各プログラム 担当教員が指示 WINGS-GLAFS生は この単位を履修
3799-234	高齢社会総合研究学実習Ⅰ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-235	高齢社会総合研究学実習Ⅱ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-236	高齢社会総合研究学実習Ⅲ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-237	高齢社会総合研究学実習Ⅳ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-238	高齢社会総合研究学実習Ⅴ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-239	高齢社会総合研究学実習Ⅵ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-240	高齢社会総合研究学実習Ⅶ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-241	高齢社会総合研究学実習Ⅷ	2	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
3799-259	高齢社会総合研究学演習Ⅹ	1	通年	各教員	－	集中	選択必修	同上
講義（選択必修: 4単位以上）								
●各参画専攻から提供された高齢社会横断科目群（別表）の中から選択して合計4単位以上を履修する ●以下はIOG提供の高齢社会横断科目群を示す（リーディング大学院履修生で特論未履修の者は下記を履修する）								
3799-225	高齢社会総合研究学特論Ⅳ 産学官民連携で作り上げる 高齢者の健康と地域のあり方	2	A2	飯島 孫	水	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	12/11～1/22 オンライン (一部ハイブリッドの回あり)
3799-226	高齢社会総合研究学特論Ⅴ 地域農業マネジメント	2	A2	八木	火 金	5限 16:50-18:35	選択必修	(週2回)オンライン
3799-227	高齢社会総合研究学特論Ⅵ 高齢者法	2	A1A2	樋口	木	3限 13:00-14:45	選択必修	オンデマンド (一部オンラインの回あり)
3799-231	高齢社会総合研究学特論Ⅹ ジェロントテクノロジー	2	A1A2	二瓶 檜山	木	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	オンライン

実習・演習Ⅹはリーディング大学院履修生のみ

■4_プログラムの修了要件

本プログラムでは、修士課程1年次修了時点のQualifying Examination 1 (QE1)、修士課程2年次修了時点のQualifying Examination 2 (QE2)、並びに博士課程修了時のFinal Examination (FE) の合計3回審査を行います。

■修士課程修了時 資格審査(QE: Qualifying Examination)

- ・「単位要件」等によって審査します。
- ・単位要件：通論（必修）1単位以上の取得。

■修士課程修了時 資格審査(QE2: Qualifying Examination2)

- ・「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって審査します。
- ・単位要件：通論（必修）2単位の取得と高齢社会横断科目群2単位以上の取得。
- ・学振要件：日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC1）に申請。
- ・博士課程進学の確認：面接により博士後期課程進学予定を確認。

■博士課程修了時 修了審査(FE: Final Examination)

FE では、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」、「博論要件」によって審査します。この審査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定が付記されます。

- ・単位要件：通論(必修) 2単位と、実習(必修) 1単位以上と、高齢社会横断科目群(選択必修) 4単位以上、合計7単位以上取得
- ・発表要件：博士課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数の博論研究進捗発表
- ・学振要：日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC2)に申請
- ・博論要件：提出した博士論文の発表を通じて、高齢社会の基礎の理解を踏まえているかを審査

■5_経済的支援(卓越RA)

経済的支援は、所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越RAとして委嘱します。

修士課程2年次、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額18万円を上限に支給します。

プログラム担当教員

*所属・職名は2025年3月末現在

氏名	所属（研究科・専攻等）・職名
加藤 泰浩	工学系研究科・研究科長、システム創成学専攻・教授（プログラム責任者）
大月 敏雄	工学系研究科建築学専攻・教授、高齢社会総合研究機構・副機構長（プログラムコーディネーター）
飯島 勝矢	高齢社会総合研究機構・機構長／未来ビジョン研究センター・教授
祐成 保志	高齢社会総合研究機構・副機構長／大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・准教授
井口 高志	大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻・准教授
高橋 美保	大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授
北村 友人	大学院教育学研究科 学校教育高度化専攻・教授
加藤 淳子	大学院法学政治学研究科 総合法政専攻・教授
横山 ゆりか	大学院総合文化研究科 広域科学専攻・教授
福田 大輔	大学院工学系研究科 社会基盤学専攻・教授
松田 雄二	大学院工学系研究科 建築学専攻・准教授
小泉 秀樹	大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授
柳澤 秀吉	大学院工学系研究科 機械工学専攻・准教授
津本 浩平	大学院工学系研究科 化学生命工学専攻・教授、工学系研究科・副研究科長
横野 泰之	大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構・上席研究員
太田 順	大学院工学系研究科 精密工学専攻・教授
青山 和浩	大学院工学系研究科 システム創成学専攻・教授
小紫 公也	大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻・教授
峯松 信明	大学院工学系研究科 電気系工学専攻・教授
求 幸年	大学院工学系研究科 物理工学専攻・教授
吉田 英弘	大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻・教授
山口 和也	大学院工学系研究科 応用化学専攻・教授
伊藤 大知	大学院工学系研究科 化学システム工学専攻・教授
森本 淳平	大学院工学系研究科 化学生命工学専攻・講師
檜山 敦	大学院工学系研究科 先端学際工学専攻・特任教授
藤井 康正	大学院工学系研究科 原子力国際専攻・教授
酒井 崇匡	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・教授
長門石 暁	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・准教授
茂木 源人	大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻・教授
塩見 淳一郎	大学院工学系研究科 附属総合研究機構・教授
細井 文樹	大学院農学生命科学研究科 生物・環境工学専攻・教授
霜田 政美	大学院農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻・教授

プログラム担当教員

*所属・職名は2025年3月末現在

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
三坂 巧	大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻・准教授
潮 秀樹	大学院農学生命科学研究科 水圏生物科学専攻・教授
八木 洋憲	大学院農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻・准教授
高橋 伸一郎	大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻・教授
堀 正敏	大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻・教授
橋本 英樹	大学院医学系研究科 公共健康医学専攻・教授(同研究科社会医学専攻兼任/健康科学・看護学専攻兼任)
小川 純人	大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻・教授
山田 雄大	大学院医学系研究科 外科学専攻・講師
山本 則子	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授
橋爪 真弘	大学院医学系研究科 国際保健学専攻・教授
安琪	大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻・准教授
割澤 伸一	大学院新領域創成科学研究科・副研究科長 人間環境学専攻・教授
岡部 明子	大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻・教授
二瓶 美里	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授
鳴海 拓志	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・准教授
越塚 登	学際情報学府 学際情報学専攻・教授
濱田 健夫	学際情報学府 学際情報学専攻・特任准教授
孫 輔卿	未来ビジョン研究センター・特任准教授

プログラムメンバー

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
秋山 弘子	未来ビジョン研究センター・客員教授
高瀬 麻以	工学系研究科建築学専攻・特任研究員
田中 友規	工学系研究科建築学専攻・特任助教
コスタンティーニ ヒロコ	未来ビジョン研究センター・特任助教(2025年1月まで)
高齢社会総合研究機構GLAFS事務局	

応募状況と合格者

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
プログラム募集定員数	10人	14人	10人	10人	10人
応募学生数	7人	31人	26人	42人	38人
うち留学生数	0人	10人	8人	15人	2人
うち自大学出身者数	2人(0人)	13人(0人)	9人(0人)	14人(0人)	22人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	18人(10人)	17人(8人)	28人(15人)	16人(2人)
うち社会人学生数	4人(0人)	3人(3人)	5人(5人)	10人(6人)	7人(1人)
うち女性	3人(0人)	9人(4人)	6人(3人)	19人(8人)	11人(0人)
合格者数	7人	14人	10人	10人	10人
うち留学生数	0人	2人	1人	1人	0人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)	6人(0人)	7人(0人)	8人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)	4人(1人)	3人(1人)	2人(0人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)	0人(0人)	1人(0人)	2人(0人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)	1人(0人)	5人(1人)	5人(0人)
②のうち受講学生数	7人	14人	10人	10人	10人
うち留学生数	0人	2人	1人	1人	0人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)	6人(0人)	7人(0人)	8人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)	4人(1人)	3人(1人)	2人(0人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)	0人(0人)	1人(0人)	2人(0人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)	1人(0人)	5人(1人)	5人(0人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.00倍	2.21倍	2.6倍	4.2倍	3.8倍
充足率(合格者数/募集定員)	70%	100%	100%	100%	100%

※ 博士入学生 2020年度、2021年度：3年制博士1年次 各1名、2022年度：4年制博士1年次 1名、2023年度：0名、2024年度：1名

※()は留学生の人数

※ 2021年度は、2回(4月、9月)募集の合計

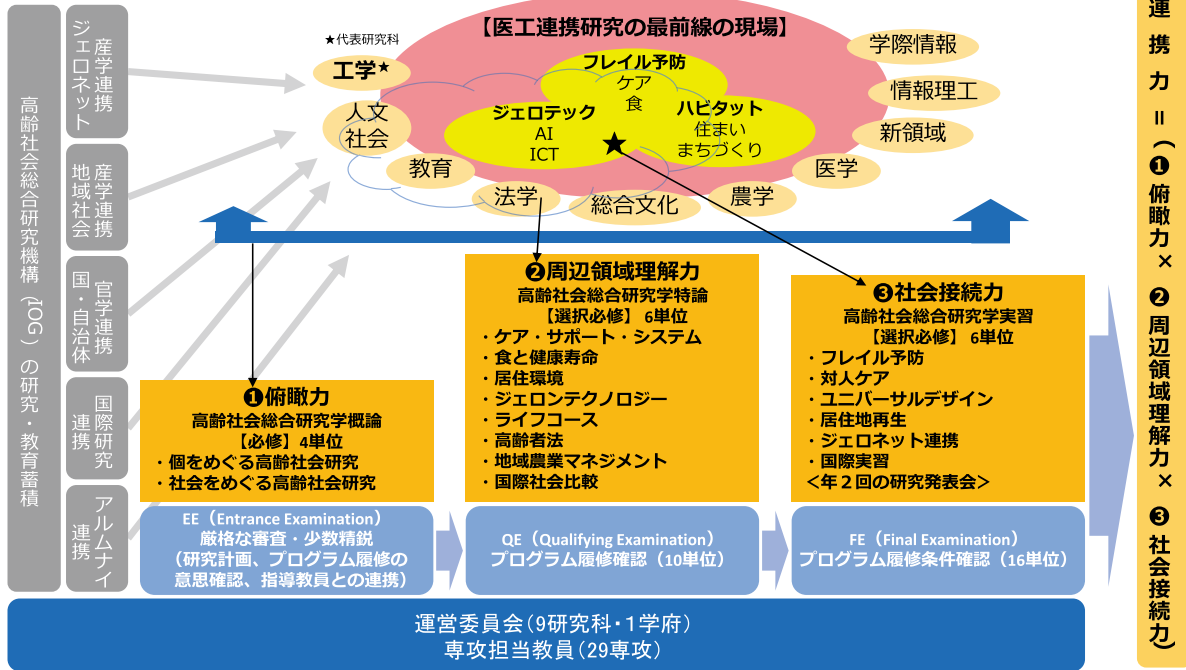
※各年度：各年度末現在

WING-GLAFS の全体像

■ 2020 年スタート時

高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS

日本を皮切りに世界中のあらゆる領域でデフォルトとなっていく高齢社会特有の課題解決に向けて、
高齢社会総合研究学（ジェロントロジー）の体系を踏まえつつ、医工連携研究の最前線の現場で
俯瞰力、周辺領域理解力、社会接続力を育みながら、研究の多領域連携力を身につけた人材



■ 2022 年度～



学生の業績

GLAFS の学生が 2024 年度に発表した研究論文や学会発表などの業績について紹介します。

リーディング生

田中 萌子

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Ohyama, T., Tahara-Sasagawa E., Yonezawa, K., Usui, Y., Tanaka, M., Ohori, R., Fujita, M., Matsuzaki, M., Suetsugu, Y., Sato, Y., Haruna, M., & The J-PEACH Study Group As Of 2020-2023. (2025) Physical activity in the second trimester of pregnancy in relation to employment and teleworking availability: a multicenter study. Journal of Japan Academy of Midwifery: JJAM. (Accepted). 査読有
2. Fukuhara, A., Hikita, N., Suetsugu, Y., Sato, Y., Ohori, R., Tanaka, M., Fujita, M., Matsuzaki, M., Sasaki, S., & Haruna, M. (2025). Factors related to dissatisfaction with body shape among pregnant Japanese women: A prospective observational study. Journal of Japan Academy of Midwifery: JJAM. (Accepted). 査読有
3. Aoyama, S., Haruna, M., Yonezawa, K., Tahara-Sasagawa, E., Usui, Y., Ohori, R., Tanaka, M., Fujita, M., Matsuzaki, M., Suetsugu, Y., Sato, Y., & Takeuchi, A. (2025). Factors Associated With Inadequate Gestational Weight Gain: A Prospective Multicenter Cohort Study. Nursing & health sciences, 27(1), e70047. 査読有
4. Nakano, K., Tanaka, M., Nishihara, N., Usui, Y., Yonezawa, K., Hikita, N., Tahara-Sasagawa, E., Sasaki, S., Nagamatsu, T., Haruna, M., & Tokyo Area Members Of The J-Peach Study Group As Of 2019-2022 (2025). Association of Overnight Fasting Duration and Meal Frequency with Glucose and Lipid Metabolism During Pregnancy: A Cross-Sectional Study. Nutrients, 17(5), 807. 査読有
5. Kishino, S., Yonezawa, K., Haruna, M., Usui, Y., Sasaki, S., Fujita, M., Matsuzaki, M., Sato, Y., Suetsugu, Y., Ohori, R., Tanaka, M., & Aoyama, S. (2025). Relationship between maternal egg consumption during lactation and the risk of developing egg allergies in 12-month-old infants: A multicenter cohort study. Japan Journal of Nursing Science: JJNS, 22(1), e12631. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Nishihara, N., Haruna, M., Usui, Y., Yonezawa, K., Hikita, N., Sasagawa, E., Nakano, K., Tanaka, M., Ohori, R., Aoyama, S., Sasaki, S., Fujita, M., Matsuzaki, M., Suetsugu, Y., Sato, Y. Dietary Intake of the Women with Nausea and Vomiting

during the Second Trimester of Pregnancy: A Cross-sectional Cohort Study in Japan. The 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. February 13-14, 2025. 査読有

2. Higuchi, M., Fujita, M., Suzuki, M., Aoyama, S., Yokoyama, M., Tanaka, M., Sato, Y., Suetsugu, Y., Haruna, M. Association between weight gained by mid-pregnancy in women who experienced early pregnancy weight loss and gestational diabetes mellitus. The 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea. February 13-14, 2025. (Poster). 査読有
3. Tanaka, M., Haruna M., Yonezawa K., Yokoyama M., Aoyama S., Pathirathna M., Usui Y., Fujita M., Suzuki M., Hikita N., Suetsugu Y., Sato Y., Minami Y., Kishi A., Osako N., Imai Y., Fujita S., Ueda H., Kamada M. Association of accelerometer-derived sleep measures with depression and anxiety during pregnancy: a prospective observational cohort study. The American College of Sports Medicine: ACSM 2025 Annual Meeting, Atlanta, USA. May 27-30, 2025. (Poster). (Accepted). 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Tanaka, M. Association of accelerometer-derived sleep measures with depression and anxiety during pregnancy: a prospective observational cohort study. The University of Tokyo-National Taiwan University Joint Conference 2024, Tokyo. November 28, 2024. 査読無

前田 一步

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 前田一步．近代日本都市公園における公共性の歴史的展開——振り子としての公共性．ランドスケープ研究，2024；88(2): 96-99. 査読無
2. 前田一步，堀江和正，瀬戸健太郎．「国鉄労働組合婦人部実態調査」（1952 年）の復元過程——「データセットの整備」と「資料保存」は両立しうるか．SSJ Data Archive Research Paper Series, 2024; 90: 1-43. 査読無
3. 佐藤香，堀江和正，瀬戸健太郎，前田一步．「国鉄労働組合婦人部実態調査」の復元．社会科学研究，2025；76 105-122. 査読無
4. 相澤真一，菅沼明正，前田一步．戦後労働調査資料の撮影作業．社会科学研究，2025；76: 141-158. 査読無

【著書、編著】

1. 前田一步, 団地のなかの児童公園——高度経済成長期の外遊びをめぐる生活時間データの分析. 相澤真一, 渡邊大輔, 石島健太郎, 佐藤香(編). 戦後日本の貧困と社会保障: 社会調査データの復元からみる家族. 東京大学出版会, 2024 年: pp221-241.
2. 渡邊大輔, 前田一步. 耐久消費財の普及は妻の家事時間を減らしたのか. 相澤真一, 渡邊大輔, 石島健太郎, 佐藤香(編). 戦後日本の貧困と社会保障: 社会調査データの復元からみる家族. 東京大学出版会, 2024 年: pp202-219.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 前田一步. 昭和戦前期における街頭紙芝居の産業化と規格化——都市オープンスペース研究の視点から. 社会政策学会 第149回大会, 大分 2024.10.19-20. 査読無
2. 前田一步. 社会調査からみる戦後期・巨大公共企業の女性労働者文化——計量歴史社会学の実践. 日本社会学会 第97回大会, 京都, 2024.11.10-11. 査読無

WINGS 生

生田 大樹

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 生田大樹, 林勇佑, 杉山弘和. 新薬の費用対効果分析に向けた層別化医療のモデル化と評価事例. 化学工学会第55回秋季大会, 札幌, 2024. 9. 11-13. 査読無

石井 裕人

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Ishii H, Yamagishi M, Yajima J. Two Tetrahymena kinesin-9 family members exhibit slow plus-end-directed motility in vitro. Scientific Reports, 2024; 14 (1): 20993. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Ishii H, Yamagishi M, Yajima J. Characterization of the motility of Tetrahymena kinesin 9A and 9B. 21st IUPAB Congress 2024, Kyoto, Japan, 2024. 6. 24-28. 査読有
2. Ishii H, Yamagishi M, Yajima J. Characterizing the in vitro motor properties of kinesin-9 family members from Tetrahymena. 69th Annual Meeting of the Biophysical Society, Los Angeles, USA, 2025. 15-19. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 石井裕人, 山岸雅彦, 矢島潤一郎. Characterizing the motor properties of kinesin-9 family members from Tetrahymena. 第76回日本細胞生物学会大会, 筑波, 2024. 7. 17-19. 査読無
2. 石井裕人, 山岸雅彦, 矢島潤一郎. 絨毛虫 Tetrahymena kinesin-9A のモーター特性と細胞内機能の研究. 第57回日本原生生物学会大会, 山口, 2024. 11. 22-24. 査読無

石川 健人

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Ishikawa K, Chambers JK, Uchida K. Activation of the Wnt/ β -catenin signaling pathway and CTNNB1 mutations in canine intestinal epithelial proliferative lesions: Journal of Veterinary Medical Science, 2024; 86(7): 748-755. 査読有
2. 大慈 祐介, 前澤 誠希, 石川 健人, チェンバーズ・ジェームズ, 内田 和幸, 猪熊 壽. 23ヵ月齢のホルスタイン種初妊牛に発生した牛伝染性リンパ腫の1症例: 家畜診療, 2024; 71(6): 369-370.

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Ishikawa K, Chambers JK, Nakashima Ko, Uchida K. Histological classification and pathological studies of canine intestinal epithelial tumors. 2024 NTU-UT Veterinary Bilateral Virtual Symposium, Tokyo, Japan, 2024. 12. 5. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 石川健人.VP-98 猫の大腸. 第34回獣医病理診断研究会, オンライン, 2024. 9. 27. 査読無
2. 島野 翔太郎, 富安 博隆, 後藤(越野) 裕子, 水野 壮司, 石川 健人, 佐久間 大樹, 豊田 泰斗, チェンバーズ ジェームズ, 内田 和幸, 栃内 亮太, 奥田 優. 健康犬におけるドキシソルピシンとエビルピシンの心毒性の比較および病理組織学的所見に基づいた心筋傷害と関連する心エコー図指標の検討. 第121回日本獣医循環器学会定例会, 大阪, 2024. 12.14. 査読無.
3. 石川 健人, チェンバーズ ジェームズ, 内田 和幸. 犬の直腸-肛門部に発生した上皮性腫瘍の病理組織学的検討. 第41回日本毒性病理学会総会及び学術集会, 三島, 2025. 1. 30. 査読無.
4. 石川健人, チェンバーズジェームズ, 内田和幸. 獣医病理学研修会 出題標本 No.1373. 猫の大腸(東京大学). 第65回獣医病理学研修会, 盛岡, 2025. 3. 27. 査読無.
5. 石川健人, チェンバーズジェームズ, 中島亘, 内田和幸. 犬の腸上皮性腫瘍の腫瘍形態と組織型および生存期間との関連性. 第12回日本獣医病理学専門家協会学術集会, 盛岡, 2025. 3. 28. 査読無.

板倉 悠真

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Y. Itakura, K. Kato, K. Komurasaki, H. Sekine and H. Koizumi. Analysis of Laser-Supported Detonation Wave Expanding to the Outside of a Laser Beam. ICCFD12, Kobe, Japan, 2024. 7. 14-19. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 板倉悠真, 小紫公也, 関根北斗, 関根 北斗, Mielczarek Pascal, 村田 陽亮, 小泉宏之. レーザー支持爆轟波のユゴニオ解析における実在気体効果の影響評価. 第68回宇宙科学技術連合講演会, 姫路, 2024. 11. 5-8. 査読無
2. 板倉悠真, 小紫公也, 関根北斗, 小泉宏之. 2次元レーザー支

持爆轟波のユゴニオ解析における実在気体効果の評価．第 38 回数値流体力学シンポジウム，駒場，2024. 12. 11-13. 査読無

太田 貴士

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Takashi Ota, Keigo Matsumoto, Kazuma Aoyama, Tomohiro Amemiya, Takuji Narumi, Hideaki Kuzuoka. Ankle tendon electrical stimulation to enhance sensation of walking on a slope in walking-in-place. *Frontiers in Virtual Reality*. 2024. DOI: 10.3389/frvir.2024.1456202. 査読有
2. Takashi Ota, Tomohiro Amemiya, Hideaki Kuzuoka, Kazuma Aoyama. Electrical Stimulation of Nerve Bundles in the Lower Leg Generates Tactile Sensations on the Plantar and Dorsal Foot. *IEEE Access*. 2024. DOI: 10.1109/ACCESS.2024.3515259. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Takashi Ota, Keigo Matsumoto, Kazuma Aoyama, Tomohiro Amemiya, Takuji Narumi, Hideaki Kuzuoka. The Effects of Electrical Stimulation of Ankle Tendons on Redirected Walking with the Gradient Gain. *ACM VRST'24*. 2024. DOI: 10.1145/3641825.3687727. 査読有
2. Takashi Ota, Hideaki Kuzuoka, Tomohiro Amemiya, Kazuma Aoyama. Insights from an Experiment Investigating the Relationship between the Effect of Electrical Stimulation of the Ankle Tendons and the User's Biological Structure, Gender, or Age. *ICAT-EGVE'24*. 2024. DOI: 10.2312/egve.20241355. 査読有
3. Ibuki Nakayama, Takashi Ota, Hiromasa Oku, Kazuma Aoyama. Developing an Optimization System for Point Current Source Positions in Transcutaneous Electrical Nerve Stimulation Using the Finite Element Method. *IEEE/SICE SII'25 (Poster)*. 2025. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 太田貴士，葛岡英明，雨宮智浩，青山一真．有限要素法を用いた経皮電気刺激の電極配置最適化システム．第 29 回日本バーチャルリアリティ学会大会．2024. 査読無
2. 太田貴士，中村拓人，葛岡英明．五十肩の遠隔 VR リハビリテーションにおける異種互恵ケアの効果．第 29 回日本バーチャルリアリティ学会大会．2024. 査読無
3. 太田貴士，葛岡英明．Instant-NGP による実環境のモデリングおよびアバターによる身体化を用いた没入型遠隔コミュニケーションシステムの試作．第 73 回復合現実感研究会．2024. 査読無
4. 太田貴士．Neural Radiance Fields を用いた 3D 表現における物体の隠消手法の検討．第 211 回ヒューマンコンピュータインタラクション研究会．2025. 査読無
5. 太田貴士，葛岡英明，青山一真．下肢の筋の収縮を効率的に検知するための大腿部における加速度センサ配置に関する有限要素法を用いた検討．第 5 回神経刺激インタフェース研究会．2025. 査読無
6. 太田貴士．時間的に連続な複数画像から構築された NeRF 表現において人物オブジェクトを削除するパイプラインについての検討．電子情報通信学会 IE 研究会．2025. 査読無

● 受賞歴

1. 2024 年 12 月．ICAT-EGVE 2024 Best Paper Honorable Mention Award
2. 2024 年 12 月．令和 6 年ハプティクス研究会 研究発表賞（受賞発表：太田貴士，雨宮智浩，葛岡英明，青山一真．足首神経束電気刺激による足底および足背への触覚生起．第 32 回ハプティクス研究会．2024）
3. 2025 年 3 月．日本バーチャルリアリティ学会 学術奨励賞
4. 2025 年 3 月．日本バーチャルリアリティ学会 研究会貢献賞（関連発表：太田貴士，雨宮智浩，葛岡英明，青山一真．有限要素法を用いた足首の腱電気刺激における電極配置最適化の試み．第 4 回神経刺激インタフェース研究会．2024；太田貴士，雨宮智浩，葛岡英明，青山一真．足首神経束電気刺激による足底および足背への触覚生起．第 32 回ハプティクス研究会．2024；太田貴士，葛岡英明．Instant-NGP による実環境のモデリングおよびアバターによる身体化を用いた没入型遠隔コミュニケーションシステムの試作．第 73 回復合現実感研究会．2024.）

金沢 直晃

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Kawaharazuka K, Kanazawa N, Obinata Y, Okada K, Inaba M. Continuous Object State Recognition for Cooking Robots Using Pre-Trained Vision-Language Models and Black-Box Optimization. *IEEE Robotics and Automation Letters*, 2024; 9(5): 4059-4066. 査読有
2. Kawaharazuka K, Obinata Y, Kanazawa N, Okada K, Inaba M. Robotic Environmental State Recognition with Pre-Trained Vision-Language Models and Black-Box Optimization. *Advanced Robotics*, 2024; 38(18): 1255-1264. 査読有
3. Kawaharazuka K, Obinata Y, Kanazawa N, Tsukamoto N, Okada K, Inaba M. Reflex-Based Open-Vocabulary Navigation without Prior Knowledge Using Omnidirectional Camera and Multiple Vision-Language Models. *Advanced Robotics*, 2024; 38(18): 1307-1317. 査読有
4. Kanazawa N, Kawaharazuka K, Obinata Y, Okada K, Inaba M. Real-world cooking robot system from recipes based on food state recognition using foundation models and PDDL. *Advanced Robotics*, 2024; 38(18): 1318-1334. 査読有
5. 金沢直晃，河原塚健人，大日方慶樹，岡田慧，稲葉雅幸．料理レシピ記述解析と視覚 - 言語モデルの時系列利用による食材状態変化認識に基づくロボットの調理作業実行. *日本ロボット学会誌*，2024; 42(3): 266-273. 査読有
6. 河原塚健人，大日方慶樹，金沢直晃，岡田慧，稲葉雅幸．大規模視覚 - 言語モデルと遺伝的アルゴリズムに基づくロボットののための状態認識. *日本ロボット学会誌*，2024; 42(3): 259-265. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Open X-Embodiment Collaboration. Open X-Embodiment: Robotic Learning Datasets and RT-X Models. 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA2024), Yokohama, Japan, 2024.05.13-17. 査読有 <https://robotics-transformer-x.github.io/>

- Obinata Y, Jia H, Kawaharazuka K, Kanazawa N, Okada K. Remote Life Support Robot Interface System for Global Task Planning and Local Action Expansion Using Foundation Models. 2024 IEEE-RAS International Conference on Humanoid Robots (Humanoids2024), Nancy, France, 2024.11.22-24. 査読有
- Kawaharazuka K, Obinata Y, Kanazawa N, Okada K, Inaba M. Robotic State Recognition with Image-to-Text Retrieval Task of Pre-Trained Vision-Language Model and Black-Box Optimization. 2024 IEEE-RAS International Conference on Humanoid Robots (Humanoids2024), Nancy, France, 2024.11.22-24. 査読有
- Kim S, Kanazawa N, Hasegawa S, Kawaharazuka K, Okada K. Front Hair Styling Robot System Using Path Planning for Root-Centric Strand Adjustment. 2025 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII2025), Munich, Germany, 2025.1.21-24. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 大日方慶樹, 塚本直人, 河原塚健人, 金沢直晃, 岡田慧, 稲葉雅幸. 生活支援ロボットの現場知識に基づくオンライン動作プログラム展開. 第38回人工知能学会全国大会, 浜松, 2024.5.28-31. 査読無
- 大日方慶樹, 賈浩宇, 河原塚健人, 金沢直晃, 岡田慧. あいまいな生活支援ロボット動作記述のVLMとARデバイスを用いた提示と指示による展開. 第42回日本ロボット学会学術講演会, 大阪, 2024.9.3-6. 査読無
- 河原塚健人, 金沢直晃, 大日方慶樹, 岡田慧. 大規模視覚-言語モデルによる調理ロボットの時系列食材状態認識. 第42回日本ロボット学会学術講演会, 大阪, 2024.9.3-6. 査読無
- 河原塚健人, 大日方慶樹, 金沢直晃, 塚本直人, 岡田慧. 全天球カメラと事前学習済み視覚-言語モデルによる事前知識を必要としない反射型 Open Vocabulary Navigation. 第25回SICEシステムインテグレーション部門講演会, 岩手, 2024.12.18-20. 査読無

● 受賞歴

- 2024年5月「ICRA2024 Best Conference Paper Award」(Open X-Embodiment Collaboration. Open X-Embodiment: Robotic Learning Datasets and RT-X Models) <https://2024.ieee-icra.org/awards-and-finalists/>
- 2024年5月「ICRA2024 Finalists of Best Paper Award in Robot Manipulation」(Open X-Embodiment Collaboration. Open X-Embodiment: Robotic Learning Datasets and RT-X Models) <https://2024.ieee-icra.org/awards-and-finalists/>
- 2024年12月「第25回SICEシステムインテグレーション部門講演会優秀講演賞」(河原塚健人, 大日方慶樹, 金沢直晃, 塚本直人, 岡田慧. 全天球カメラと事前学習済み視覚-言語モデルによる事前知識を必要としない反射型 Open Vocabulary Navigation)
- 2025年1月「SII2025 Best Student Paper Finalist」(Kim S, Kanazawa N, Hasegawa S, Kawaharazuka K, Okada K. Front Hair Styling Robot System Using Path Planning for Root-Centric Strand Adjustment.)

北代 絢大

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

- Fujita M, Cheng Z, Lugo S.D.R, Kitadai A, Dai Y, Fukasawa Y, Nishino N. Analysis of Medical Data and Machine-Learning Algorithms from the Perspective of Public-Goods Models of Data-Provision Decision Making. *Procedia CIRP*, 2024; 126: 3-8. 査読有
- Fujita M, Dai Y, Kitadai A, Lugo S.D.R, Cheng Z, Nishino N. Survey on Stakeholder Cooperative Behavior for Designing Voluntary Medical Data Provision Motivation Mechanisms. *Procedia CIRP*, 2024; 126: 14-19. 査読有
- Kobayashi M, Kitadai A, Sato U, Fujita M, Nishino N. Real Traffic Analysis Around Large-Scale Shopping Mall Using Game Theory. *IFIP International Conference on Advances in Production Management Systems*, 2024; 408-423. 査読有
- Kitadai A, Ogawa K, Nishino N. Examining the Feasibility of Large Language Models as Survey Respondents. 2024 IEEE International Conference on Big Data, 2024; 3858-3864. 査読有
- Takenoya Yu, Kitadai A, Nishino N. Accounting for Traffic Congestion: Heterogeneous Target Arrival Times, Uncertainty, and Monetary Incentives. 2024 IEEE International Conference on Big Data, 2024; 3880-3888. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

- 北代絢大. 『経済セミナー』2024年8・9月号へのコメント. 経済セミナー 2024年12月・2025年1月号. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Kitadai A, Lugo S.D.R., Tsurusaki Y, Fukasawa Y, Nishino N. Can AI with High Reasoning Ability Replicate Human-like Decision Making in Economic Experiments?. 24th International Conference on Group Decision and Negotiation & 10th International Conference on Decision Support System Technology, Porto, Portugal, 2024. 6. 2-5. 査読有
- Sawazaki H, Shang X, Lee S, Kitadai A, Nishino N. Tenant allocation in shopping malls based on deferred acceptance algorithm. The 18th CIRP International Conference on Intelligent Computation in Manufacturing Engineering, Gulf of Naples, Italy, 2024. 7. 10-12. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 北代絢大, 西野成昭. アンケート調査における大規模言語モデルの回答者代替可能性. 日本経営工学会秋季大会, 島根, 2024. 10. 26-27. 査読無
- 竹ノ谷悠, 北代絢大, 西野成昭. 到着時刻の異質性を組み込んだ交通状況評価の数値解析. 日本経営工学会秋季大会, 島根, 2024. 10. 26-27. 査読無
- 周澤宇, 北代絢大, 佐藤詩, 竹ノ谷悠, 西野成昭. 渋滞緩和のための効果的なBus Rapid Transit導入に関する評価検証: 実データに基づくモデル化およびシミュレーション. 日本経営工学会秋季大会, 島根, 2024. 10. 26-27. 査読無
- 北代絢大, 深澤祐援, 西野成昭. 最後通牒ゲームの大規模言

語モデルを用いたシミュレーション：バイアス補正による実験結果の再現性検証．行動経済学会第18回大会，大阪，2024.12.6-8. 査読有

- 渡邊光，北代絢大，永合由美子，李相直，夏目哲，宮原史明，藤田正典，西野成昭．新製品開発における意思決定支援ツールの提案：LLMとマッチングモデルを活用して．サービス学会第13回国内大会，大阪，2025.3.4-6. 査読有
- 周澤宇，北代絢大，佐藤詩，竹ノ谷悠，藤田正典，西野成昭．交通渋滞緩和に向けたBus Rapid Transit導入に関する評価検証：実データに基づくモデル化およびシミュレーション．サービス学会第13回国内大会，大阪，2025.3.4-6. 査読有
- 北代絢大，石川竜一郎，李相直，藤健勇，西山浩平，西野成昭．バーチャルエコノミーに向けたサービス設計の新視点：空間の差異がコミュニケーションにもたらす影響．サービス学会第13回国内大会，大阪，2025.3.4-6. 査読有
- 竹ノ谷悠，北代絢大，西野成昭．出発時刻選択モデルにおける金銭的インセンティブの渋滞緩和効果分析．サービス学会第13回国内大会，大阪，2025.3.4-6. 査読有
- 中村太一，北代絢大，西野成昭．データ収集における協力行動の理論分析と経済実験：不完備情報下の非線形公共財ゲーム．サービス学会第13回国内大会，大阪，2025.3.4-6. 査読有

● 受賞歴

- 2024年6月「2024 GDN Springer Best Student Paper Award」(Kitadai A., Lugo S.D.R., Yudai T., Yusuke F., Nariaki N. Can AI with High Reasoning Ability Replicate Human-like Decision Making in Economic Experiments?)

日下部 紗伎

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Kusakabe S., Katashima T., Sakuma I., Akagi Y., Non-linear stress relaxation and failure of time-strain separability of aqueous PEO/silica mixtures, Polymer Journal, 2025, 57(2): 163-170. 査読有
- Kusakabe S., Li X., Mayumi K., Katashima T., Sakuma I., Akagi Y., "Adsorption Suppression and Viscosity Transition in Semidilute PEO/silica Nanoparticle Mixtures under the Protein Limit", Journal of Colloid & Interface Science, in press. 査読有

小関 裕介

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Koseki, Y., & Amemiya, T. Being an older person: modulation of walking speed with geriatric walking motion avatars. Frontiers in Virtual Reality, 2024; Volume 5. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Koseki, Y., Nakano, K., Narumi, T., Hideaki, K., Tomohiro, A. Co-embodied Mirroring: Preliminary Investigating the Effects of Movement Blending on Partner Impressions. Augmented Humans 2025 Posters, Abu Dhabi, UAE, 2025. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 小関裕介，中野萌士，鳴海拓志．下方視野を拡大したHMDを用いたアバタの視覚情報提示が風味知覚に与える影響の基礎検討．MVE研究会，北海道，2024.9. 査読無
- 小関裕介，大野雅貴，中野萌士，葛岡英明，鳴海拓志．鳥アバタを用いたVR体験が昆虫食受容に与える影響．第29回日本VR学会大会，名古屋，2024.9. 査読無

● 受賞歴

- 2024年4月「電子情報通信学会 MVE 賞」，（小関裕介，中野萌士，鳴海拓志，葛岡英明，雨宮智浩．電子情報通信学会）

佐藤 みずき

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Zizheng J, Sato M, Banjo K, Nakamura R. 第一次世界大戦後の国際社会の変動と日本外務省. ASIA PACIFIC CONFERENCE 2024, Beppu, Japan, 2024. 12. 1. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- Sato M. Diplomacy and Propaganda in the Japan-Soviet Negotiations of 1922 during the Russian Civil War. 第19回リサーチ・ショウケース，東京，2024.7.19. 査読無

島田 啓太郎

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Shimada K, Sun H, Saiki T, Ito Y, Nakagawa K. Sequentially timed all-optical mapping photography with thin-plate-based spectral broadening for advanced laser ablation system compatibility. Applied Physics A, 2025; 3: 181. 査読有
- Shimada K, Saiki T, Inada Y, Nakagawa K. Single-shot ultrafast imaging of plasma dynamics induced by dual-angle ultrashort laser pulses with subpicosecond delay. Japanese Journal of Applied Physics, 2024; 63: 110901. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説・総説】

- 島田啓太郎，中川桂一：スペクトル分離バーストパルス生成技術と超高速イメージングへの応用．精密工学会誌，2024; 90: 876-879. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Shimada K, Inada Y, Nakagawa K. Single-shot ultrafast multi-view imaging based on temporal wavelength division for capturing volumetric dynamics in femtosecond to nanosecond timescales. SPIE Photonics West 2025, San Francisco, US, 2025. 1. 28. 査読有
2. Shimada K, Sun H, Saiki T, Ito Y, Nakagawa K. Portable STAMP with thin-plate-based spectral broadening for picosecond single-shot imaging in laser ablation systems. 17th International Conference on Laser Ablation, Hersonissos, Greece, 2024. 9. 30. 査読有
3. Shimada K, Todorache D, Tanaka R, Saiki T, Inada Y, Nakagawa K. Single-shot THz-bursts-in-GHz-burst (BiBurst) imaging of picosecond dynamics in each GHz burst laser ablation. The 23rd International Conference on Ultrafast Phenomena, Barcelona, Spain, 2024. 7. 13. 査読有
4. Shimada K, Ishijima A, Saiki T, Sakuma I, Inada Y, Nakagawa K. Numerical and experimental study of spectrum shuttle for generating GHz burst pulses without sacrificing spectral ranges in advanced ultrafast imaging. 26th Photonics North Conference, Vancouver, Canada, 2024. 5. 30. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 島田啓太郎, 中川桂一: 位相形状を個別に変調できる GHz パーストパルス生成法の開発. Optics and Photonics Japan 2024, 調布, 2024. 12. 1. 招待講演

● 受賞歴

1. 2024 年 11 月「光みらい若手奨励金（コニカミノルタ科学技術振興財団賞）」（島田啓太郎・時空間整形光パルス誘起現象の超高速 3 次元イメージング）
2. 2024 年 12 月「第 27 回光設計賞 光設計特別賞」（島田啓太郎, 中川桂一・位相形状を個別に変調できる GHz パーストパルス生成法の開発）
3. 2024 年 3 月「工学系研究科長賞（研究）」（島田啓太郎）

ジョン セギョン

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 鄭世暲. 化学物質過敏症が持つ「非可視性」と患者の「可視化作業」: 「患者」と「被害者」の間で. ソシオロギス, 2024, 48: 17-34. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 鄭世暲. 診断を断る患者たち ——「論争中の病」である化学物質過敏症患者の事例を中心に—— 第 19 回日本社会心理学論学会, 東京, 2024.9.14.

鈴木 勇人

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Suzuki H. Territorial inequality in supplying graves: a case study of the role of the private sector in Tokyo metropolitan area, Japan. 35th International Geographical Congress 2024, Dublin, Ireland, 2024.8. 24-29. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 鈴木勇人. 2000 年代以降の東京大都市圏における民間部門墓地供給と立地の変化. 2025 年日本地理学会春季学術大会, 東京, 2025. 3. 20-21. 査読無

高木咲恵

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Takagi S, Yoshie M and Murai A. Physiological Measurement of Music Performance Anxiety in Wind Instrument Players: A Preliminary Study. The 46th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Florida, USA, 2024. 7.15-19. 査読有

陳 童

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 陳童, 菊地謙, 濱田裕幸, 氷上隆三, 山下淳, 安琪. 理学療法士が足底部への介入技能を再現する刺激装置の開発—刺激力の再現と検証—. 第 37 回自律分散システム・シンポジウム, 山口, 2025. 01. 15-16. 査読無

弦本 健太郎

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Tsurumoto K, Ohnishi W, Koseki T, Van Haren M, Oomen T. Integrated Rational Feedforward in Frequency-Domain Iterative Learning Control for Highly Task-Flexible Motion Control. IEEE/ASME Transactions on Mechatronics, 2024; 29(4): 3010-3018. 査読有
2. Van Haren M, Tsurumoto K, Mae M, Blanken L, Ohnishi W, Oomen T. A frequency-domain approach for enhanced performance and task flexibility in finite-time ILC. European Journal of Control, 2024; 80(A): 101033. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Tsurumoto K, Ohnishi W, Koseki T, Van Haren M, Oomen

T. Combined time-domain optimization design for task-flexible and high performance ILC. 2024 European Control Conference, Stockholm, Sweden, 2024. 6. 1190-1195. 査読有

2. Tsurumoto K, Ohnishi W, Hara Y, Kenjo A, Tanaka Y. On Analysis of Applying Iterative Learning Control to a Closed-Loop Three-Phase Linear Stepper-Motor. 2025 International Conference on Mechatronics Wollongong, Australia, 2025.3. 1-6. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 弦本健太郎, 大西亘, 原嘉仁, 見城篤, 田中米太. 三相リニアステッピングモータへの反復学習制御の適用. メカトロニクス制御研究会, 東京, 2024. 9. 49-54. 査読無

田 子健

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 田子健, 松中玲子, 開一夫. 乳幼児における順番待ち行動への傍観者視点からの評価. 日本赤ちゃん学会第24回学術集会, 東京, 2024. 8. 24. 査読有
2. 田子健, 岸山健, 陳姿因, 広瀬友紀, 幕内充. 描画の描き順における「子どもらしさ」と「大人らしさ」～特徴量抽出の方法による考察～. 日本心理学会第88回大会, 熊本, 2024. 9. 8. 査読無
3. 田子健, 山中七菜子, 松中玲子, 開一夫. 乳児における「交代」に関する理解と評価. 日本発達神経科学会第13回学術集会, 所沢, 2024. 11. 9. 査読無

中島 優樹

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Nakashima Y, Yang W, Chen P, Masuda K, Hong T, Cabral H. Tryptophan intercalation in siRNA drives the formation of polymeric micelles with enhanced delivery efficiency: RSC Pharmaceuticals. 2024;1(3):513-23. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Nakashima Y, Yang W, Cabral H. Biodegradable block copolymers incorporating tyrosinate groups demonstrate a highly effective capability for in vivo mRNA delivery. 12th World Biomaterials Congress (WBC), South Korea, 2024. 5. 26-31. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Nakashima Y, Cabral H. Impact of Polycation Chain Length on the Delivery Ability of PEG-Poly(glycidyl-phenylalanine)-based mRNA micelles. 第8回ナノマシン研究会, 東京, 2025. 1. 11. 査読無
2. Nakashima Y, Cabral H. Impact of Polycation Chain Length on the Delivery Ability of PEG-Poly(glycidyl-phenylalanine)-based mRNA micelles. The 1st BioHACK Workshop, 東京, 2025. 3. 10. 査読無

中根 葵

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Nakane A, Yanokura I, Hasegawa S, Yamaguchi N, Kojima K, Okada K, Inaba M. WARABI Hand: Five-fingered Robotic Hand with Flexible Skin and Force Sensors for Social Interaction. 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation, Yokohama, Japan, 2024. 5. 13-17. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 長谷川 峻, 中根 葵, 山口 直也, 矢野倉 伊織, 岡田 慧, 稲葉 雅幸. 省配線で独立に読み出せる超小型センサセルを分布させた汎用高密度触覚シート. ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2024, 宇都宮, 2024. 5. 29-6. 1. 査読無
2. 中根 葵, 山口 直也, 矢野倉 伊織, 小島 邦生, 岡田 慧. 人との手繋ぎのための対人適合可能な小型五指ロボットハンドの開発. 第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 盛岡, 2024. 12. 18-20. 査読無
3. 山口 直也, 矢野倉 伊織, 真壁 佑, 中根 葵, 小島 邦生, 岡田 慧. 脱着可能モジュールによる知能空間展開を利用したオンデマンドタスク実行. 第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 盛岡, 2024. 12. 18-20. 査読無
4. 矢野倉伊織, 山口直也, 中根葵, 岡田慧. 壁面着脱可能なインテリジェント省電力吸着センサモジュールによるロボットのための環境モニタリング. 第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 盛岡, 2024. 12. 18-20. 査読無
5. 矢野倉伊織, 山口直也, 中根葵, 長谷川峻, 岡田慧. カメラによる自己位置推定と吸着ポンプの真空検知による吸着位置のオンサイトティーチングデバイス. 第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 盛岡, 2024. 12. 18-20. 査読無
6. 矢野倉伊織, 山口直也, 中根葵, 真壁佑, 永田彩羽, 平井仁, 澤田智佳, 市倉愛子, 星野由紀子, 岡田慧, 稲葉雅幸. Riberry: 低コスト、カスタマイズ可能、小型、通信可能継続的統合の5Cフレームワークによる教育的ロボットソフトウェアハードウェアの構成法. 第25回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 盛岡, 2024. 12. 18-20. 査読無

● 受賞歴

1. 2024年5月「日本機械学会若手優秀講演フェロー賞」(中根葵, 指側面の近接・力覚で人の手の握り状態を推定する五指ハンドの開発と手繋ぎ動作の実現)
2. 2025年2月「SI2024優秀講演賞」(中根 葵, 山口 直也, 矢野倉 伊織, 小島 邦生, 岡田 慧. 人との手繋ぎのための対人適合可能な小型五指ロボットハンドの開発)
3. 2025年3月「東京大学大学院学際情報学府 優秀修士論文コース長賞」(中根葵, 手繋ぎ可能な分布触覚五指ハンドによる状態認識と適応行動の実現)

浜中 清貴

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Hamanaka K, Ohnishi W, Koseki T, Asai M, Yoshihara K, Nawa M, Kato N. Vibration Suppression Feedforward Control Using Active Mass Damper for Stacker Crane. 2024 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics (AIM), Boston, USA, 2024. 7. 19-21. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 浜中清貴, 大西亘, 古関隆章, 浅井満季, 箕浦康祐, 名和政道, 加藤紀彦. アクティブマスダンパの可動重量ストローク制約を陽に考慮したフィードフォワード軌道整形の一提案. メカトロニクス制御技術委員会, 東京, 2024. 12. 21. 査読無

● 受賞歴

1. 2024 年 7 月「Best Student Paper Finalist」(Hamanaka K. Vibration Suppression Feedforward Control Using Active Mass Damper for Stacker Crane)
2. 2025 年 1 月「メカトロニクス制御技術委員会 優秀論文発表賞」(浜中清貴. アクティブマスダンパの可動重量ストローク制約を陽に考慮したフィードフォワード軌道整形の一提案)
3. 2025 年 3 月「産業応用部門 優秀論文発表賞」(浜中清貴. アクティブマスダンパの可動重量ストローク制約を陽に考慮したフィードフォワード軌道整形の一提案)

平澤 郷

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Muro T, Hirasawa G, Katsuma S. Molecular basis of cytoplasmic incompatibility in *Glyphodes pyloalis* induced by *Wolbachia* endosymbiont, 第 69 回日本応用動物昆虫学会大会, 千葉, 2025. 3. 査読無
2. 平澤郷, 兼田竜昇, 松田(今井)典子, 西野耕平, 小迫英尊, 木内隆史, 勝間進. Masc と協働する遺伝子量補償実行因子の探索. 日本蚕糸学会第 95 回大会, 京都, 2025. 3. 査読無
3. 平澤郷, 室智大, 勝間進. クワノメイガの人工飼料飼育法と雌雄鑑別法の開発. 第 69 回日本応用動物昆虫学会大会, 千葉, 2025. 3. 査読無

平山 陽菜

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 平山陽菜, 清河幸子. 見知らぬ他者への援助行動は伝播するか? (1): フィールド実験を用いた検討. 日本社会心理学会第 65 回大会, 世田谷, 2024. 8-9. 31-1. 査読有

2. 平山陽菜, 清河幸子. 見知らぬ他者への援助行動は伝播するか? (2): フィールド実験を用いた検討. 日本認知科学会第 41 回大会, 文京, 2024. 10. 12-14. 査読有

廣 佳穂里

● 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Maruyama T, Takahashi Y, Hiro K, Murase K, Kojima H, Okabe T, Yamauchi Y, Sato R. Discovery of Novel Binders to Sterol Regulatory Element-Binding Protein-1 by High-Throughput Screening. ACS Med Chem Lett, 2024; 15(5): 667-676. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 廣佳穂里, 高橋裕, 丸山貴史, 岡部隆義, 小島宏建, 山内祥生, 佐藤隆一郎. HTS による新規 SREBP-1 バインダーの発見. 第 15 回スクリーニング学研究会, 2024.11.22. 査読無
2. 廣佳穂里, 高橋裕, チャンチャンウェイ, 田中和, リイテイ, 岡部隆義, 小島宏建, 倉島洋介, 佐藤隆一郎, 山内祥生. ヒトオルガノイドを用いた病態モデルの構築と腸炎改善作用を持つ天然物の同定. 日本農芸化学会大会 2025 年度大会, 2025.3.5-8. 査読無
3. 廣佳穂里, 高橋裕, チャンチャンウェイ, 田中和, 岡部隆義, 小島宏建, 倉島洋介, 佐藤隆一郎, 山内祥生. ヒト小腸オルガノイドを用いた表現型スクリーニングによる腸炎改善作用を持つ薬剤の同定. 第 24 回日本再生医療学会総会, 2025.3.20-22. 査読無

● 受賞歴

1. 2024 年 11 月「第 15 回スクリーニング学研究会ポスター賞優秀賞」(廣佳穂里, 高橋裕, 丸山貴史, 岡部隆義, 小島宏建, 山内祥生, 佐藤隆一郎. HTS による新規 SREBP-1 バインダーの発見. 一般社団法人スクリーニング学研究会)

牧野 巧

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Takumi Makino, Hidetoshi Sakurai, Ryuichiro Sato, Yoshio Yamauchi BMP signaling controls skeletal muscle cell maturation. Joint Conference of the 22nd Annual Meeting of Asian Oceanian Myology Center and the 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society (AOMC-JMS 2024), Nara, 2024.9.12-15, 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 牧野 巧, 櫻井英俊, 佐藤隆一郎, 山内祥生. BMP シグナル阻害による骨格筋細胞の成熟および筋疾患への応用. 日本農芸化学会 2025 年度大会, 札幌, 2025.3.4-9. 査読無

増田 桃佳

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Masuda M, Goto C, Imai H, Sakurai S, Hidaka M, Ushimura H, Nakao R, Ohnishi M, Umezaki M. Associations of Dietary Inflammatory Index Scores with the Disability Status and Subjective Health of Older Adults Living in Non-Urban Municipalities in Nagasaki and Ishikawa Prefectures, Japan. Public Health Nutrition, in press. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Masuda M, Goto C, Imai H, Ohnishi M, Umezaki M. Associations of the Dietary Inflammatory Index with Disability and Subjective Health among Older Adults in Japan. The 55th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference 2024, Busan, South Korea, 2024. 10. 23-25. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 増田桃佳. 非都市部に居住するニューカレドニア先住民カナックにおける家族農業の役割－「食べる」作物と「贈る」作物に着目して－. 第 42 回日本オセアニア学会研究大会, 青森, 2025. 3. 24-25. 査読無
2. 関家紗愛, 増田桃佳, 水野佑紀, 後藤千穂, 梅崎昌裕. 日本の農村漁村部における腸内細菌叢の個人間変動: 栄養素摂取パターンとの関連. 第 89 回日本健康学会総会, 東京, 2024. 10. 12-13. 査読無

松永 隆宏

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 松永隆宏, 羽藤 英二. BLE 観測の不確実性を考慮した屋内 3 次元経路選択モデルの推定. 都市計画論文集, 2024; 59(3): 1683-169. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Matsunaga T. and Hato E. Three-Dimensional Pedestrian Route Choice Model with Quantization of Observational Uncertainty. The 27th edition of the IEEE International Conference on Intelligent Transportation Systems (ITSC 2024), Edmonton, Canada, 2024. 9. 24-27. 査読有
2. Matsunaga T. and Hato E. Joint Estimation of Latent OD Matrix and 3D Route Choice Model Across Railway Station Boundaries based on Manifold Learning. A THE 28th International Conference of Hong Kong Society for Transportation Studies (HKSTS), Hong Kong, 2024. 12.09-11. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 松永隆宏, 羽藤 英二. 駅構内における三次元経路選択モデルの多様体推定, 第 79 回土木学会全国大会, 仙台, 2024. 9. 5-6.

査読無

2. 松永隆宏, 羽藤 英二. BLE 観測の不確実性を考慮した屋内 3 次元経路選択モデルの推定. 2024 年度都市計画学会全国大会(第 59 回論文発表会), 北九州, 2024. 11.2-3. 査読有

松村 実紗

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 松村 実紗, 崔 佑赫, 箕浦 有希也, 陳 家禾, 原 一晃, 中川 桂一, 正宗 賢, 桑名 健太, 小林 英津子. 仰臥位から側臥位への体位変換動作における人体モデルを用いた被介護者の軌跡推定. 第 42 回 日本ロボット学会学術講演会, 大阪, 2024. 9. 3-6. 査読無

村上 文子

● 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 村上文子, 武藤香織, 木矢幸孝, 山崎さやか, 熊田均, 山縣然太郎. 高齢者等終身サポート事業者による医療に係る意向表明文書に関する調査－中間報告－. 日本臨床倫理学会第 12 回年次大会, 東京, 2025. 3. 15-16. 査読有

山口 達寛

● 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yamaguchi T, Sasaki K, Nakazato K. Muscle disuse leads to neuromuscular transmission impairment and atrophy of fast-twitch myofibers via neuromuscular junction degeneration in mice. The 29th Annual Congress of the European College of Sport Science, Glasgow, Scotland, 2024.7.2-5. 査読有
2. Yamaguchi T, Sasaki K, Nakazato K. Muscle unloading and immobilization have different effects on neuromuscular junction degeneration and myofiber atrophy. International Biochemistry of Exercise 2024 Conference, Limerick, Ireland, 2024.7.9-11. 査読有
3. Yamaguchi T, Sasaki K, Nakazato K. Reduced expression of Dok-7 and agrin due to mechanical unloading induces acetylcholine receptor degeneration in type 1 myofibers in mice. Joint Conference of the 22nd Annual Meeting of the Asian Oceanian Myology Center and the 10th Annual Meeting of the Japan Muscle Society, Nara, Japan, 2024.9.12-15. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Yamaguchi T. Morphological and functional impairments in the neuromuscular junction lead to muscle weakness associated with aging and physical inactivity. 日本体力医学

会、2024 年 9 月 2 日、佐賀、招待講演

● 受賞歴

- 2024 年 9 月 15 日、「Best of Excellence Award」, Tatsuhiro Yamaguchi, "Reduced expression of Dok-7 and agrin due to mechanical unloading induces acetylcholine receptor degeneration in type 1 myofibers in mice"

山口 敦大

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- 山口敦大, 木南章, 八木洋憲・水田地域の園芸振興におけるソーシャル・キャピタルの役割—経営者態度との相互作用に着目して—, 農業経済研究, 2025 年 6 月掲載予定; 97 (1 号). 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 山口敦大, 木南章, 八木洋憲・稲作経営への園芸作導入と拡大のプロセス—ソーシャル・キャピタルの影響経路と時点に着目した TEA 分析—, 令和 6 年度日本農業経営学会研究大会, 愛媛, 2024. 9. 査読有

横峰 真琳

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Yokomine M, Morimoto J, Fukuda Y, Ueda T, Takeuchi K, Umezawa K, Ago H, Matsuura H, Ueno G, Senoo A, Nagatoishi S, Tsumoto K and Sando S. A high-resolution structural characterization and physicochemical study of how a peptoid binds to an oncoprotein MDM2. Chem. Sci., 2024; 15: 7051–7060. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- Yokomine M, Ueda T, Takeuchi K, Umezawa K, Ago H, Matsuura H, Ueno G, Nagatoishi S, Tsumoto K, Sando S, Morimoto J. Structural and physicochemical analysis of how a rigid peptoid binds to MDM2. 第 61 回ペプチド討論会, 名古屋, 2024. 10. 29–31. 査読無
- Yokomine M, Shiratori Y, Takaba K, Maki-Yonekura D, Yonekura K, Sando S, Morimoto J. Design of protein ligands based on heterochiral oligo(N-methylalanine) as a scaffold. 日本化学会春季年会 2025, 大阪府吹田, 2025. 3. 26–29. 査読無

● 受賞歴

- 2024 年 10 月「日本ペプチド学会 若手口頭発表賞」(Yokomine M, Ueda T, Takeuchi K, Umezawa K, Ago H, Matsuura H, Ueno G, Nagatoishi S, Tsumoto K, Sando S, Morimoto J. Structural and physicochemical analysis of how a rigid peptoid binds to MDM2)

吉澤 将嗣

● 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- 川本裕大, 竹下大介, 須藤佑介, 吉澤将嗣, 清水安夫・テニスの危機的場面における上級者の心理状態 - 感情安定型及び感情不安定型に対する自己効力感を指標とした心理的支援方法の検討 - . Journal of Kanagawa Sport and Health Science. 査読有, in press.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 吉澤将嗣, 川本裕大, 竹下大介・テニスにおける戦略的リソース配分の有効性の検証 - 状態遷移モデルを用いた得点確率分散戦略 - . 第 74 回日本体育・スポーツ・健康学会大会, 福岡, 2024.8.29-31. 査読無
- 川本裕大, 吉澤将嗣, 竹下大介・テニスの試合のピンチの場面のスタッツと試合結果の関係・東京体育学会第 16 回大会, 東京, 2025.3.17. 査読無
- 川本裕大, 竹下大介, 須藤佑介, 吉澤将嗣, 清水安夫・テニスの危機的場面での感情パターンと自己効力感の関係, 東京, 2025.3.21. 査読無

● 受賞歴

- 2025 年 3 月「広域科学専攻奨励賞」(吉澤将嗣・マルコフ連鎖を用いた世界トップテニス選手のポイント取得戦略の解明)